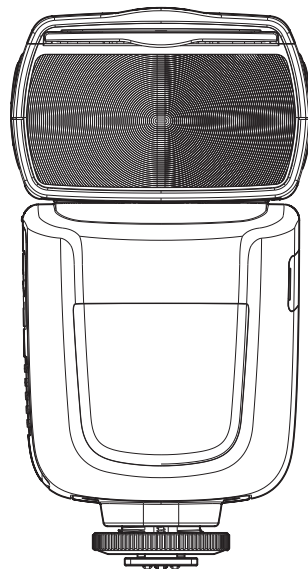
TOKISTAR

TTL Li-ion Camera Flash

VING

V860C

For Canon

取扱説明書

はじめに

このたびは Ving V860c をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用の前には必ず取扱説明書をよくお読みいただき安全に正しくお使いください。また取扱説明書は必ず大切に保管しておいてください。

- V860cはクリップオンストロボで初めて専用リチウムバッテリーを採用しました。従来のアルカリ電池と外付け電池を省略しました。
- 大きなメリットはリサイクルタイムが速くなり使用時間が長く携帯がしやすくなりました。
- Ving V860cはキャノンEOSシリーズカメラに対応します。
  さらにE-TTLⅡを使用することが可能です。
  「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で気軽にストロボによる自動調光撮影を行うことができます。

商品の特徴は以下の通りです。

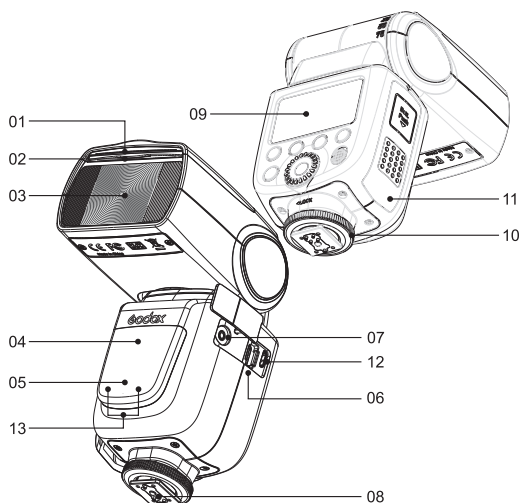
- GN58 ISO100 22段階調光(1/1 - 1/128)
- キャノンE-TTLⅡと共用でキャノンカメラと組み合わせすることで多灯ライティング撮影ができます。
- 大容量TTLリチウム電池 / ETTL自動フラッシュ / ワイヤレスコントロール
  フル発光1.5秒チャージ / フル発光1650回 / 1/8000の高速シンクロ
- TS-978-M V860専用ワイヤレス送受信機セット(別売)を使用することで多灯のワイヤレス調光ができます。
- マニュアル発光・FPモード・ハイスピードシンクロ・後幕シンクロ・発光補正などE-TTLⅡの機能があります。
- FP発光は毎回の発光と同じく色温度・光量がほぼ一致し光の分布が均一です。

安全にお使い頂くために ⚠

1. 水に濡れる場所や湿度の高い場所での使用はしないでください。
2. 本製品は内部が高圧部品の為、分解や改造はしないでください。
   修理の場合は修理専門店まはた販売店にご相談ください。
3. 使用中に落としたり異常を感じた場合は使用を中止してください。
4. 直接目に発光しないでください。
   人物撮影の場合は被写体より1m以上離れて撮影してください。
5. 撮影時、引火性・可燃性(ガソリンなど)の近くで使用しないでください。
   火災の原因となります。
6. 高温(約50℃以上)の場所に置かないでください。製品内部の電気部品の破損の原因となります。

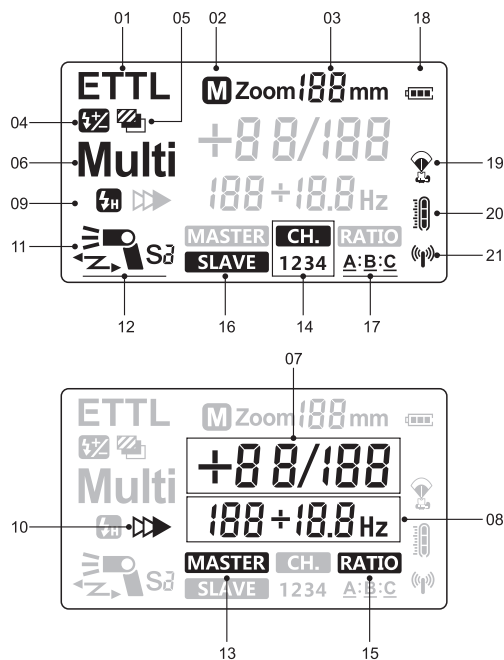
目次

各部の名称

● 本体

01 キャッチライトパネル
02 内蔵ワイドパネル
03 発光部
04 受光センサー
05 フォーカス補助光
06 ワイヤレスコントローポート
07 シンクロジャック
08 ホットシュー
09 液晶パネル
10 固定リング
11 リチウムイオン電池挿入部
12 USBポート
13 スレーブインディケーター

● コントロールパネル部

14 モード選択ボタン
15 ズーム / ワイヤレス設定ボタン
16 HSS(FPモード)設定 /
シンクロ設定(先幕 / 後幕)
17 液晶パネル照明 /
カスタム機能設定ボタン
18 セレクトダイヤル
19 セットボタン
20 パワースイッチ
21 テスト発光 / レディランプ

● 液晶パネル部

01 ETTL フラッシュモード表示
02 マニュアルズーム表示
03 ズーム焦点距離表示
04 フラッシュ光量補正表示
05 フラッシュ・ブラケッティング表示
06 マニュアルフラッシュ /
マルチフラッシュ表示
07 マニュアル発光レベル表示
08 マルチ発光回数 / 周波数
09 HSS(高速閃光モード　FPモード)表示
10 後幕シンクロ表示
11 ワイヤレスフラッシュモード表示
マスター ON
マスター OFF
マスター・スレーブ
スレーブモード
12 外部同調モード・S1 / S2
13 マスター表示
14 チャンネル表示
15 発光比率表示
16 スレーブモード表示
17 スレーブID(A:B:C)
18 電池残量表示
19 最大出力表示
20 過熱表示
21 ワイヤレス(電波)信号表示

● 梱包内容

01　フラッシュ本体
02　Li-ionバッテリー
03　バッテリーチャージャー
04　バッテリーチャージャーケーブル
05　ミニスタンド
06　保護ケース
07　取扱説明書

● 別売アクセサリー

下記のアクセサリーが用意されております。

- **TS-970-CL VV-18 シガーソケット** 01
- **TS-978-M V860専用ワイヤレス送受信機セット** 02
- **TS-991-CL クリップオンストロボ用ライティングセット**

　セット内容
　03　ミニソフトボックス
　04　ホワイト / シルバーリフレクター
　05　ハニカムグリッド
　06　カラーフィルター
　07　スヌート

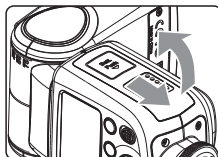
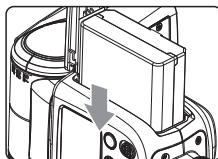
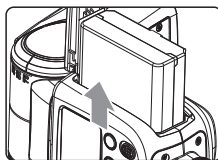
バッテリー

● 特徴

1. V860は高性能・高耐久Li-ion（リチウムイオン）バッテリーを採用しております。バッテリーの充放電回数は約500回です。
2. 本バッテリーは、耐過充電、耐過放電、耐過電流、耐内部回路ショートの高信頼設計となっておりますので、安心してご使用いただけます。
3. フル充電時間は標準バッテリーチャージャーで2.5時間です。

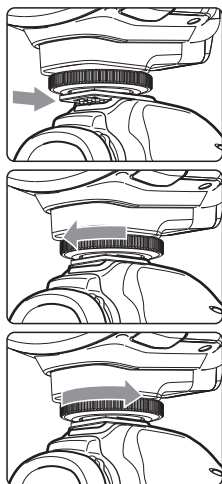
● 注意事項

1. 端子をショートさせないでください。
2. バッテリーは防滴・防水ではありませんので、水滴がかかる場所に置いたり水中には入れないでください。
3. お子様の手が届く場所に放置しないでください。
4. 24時間を超える充電をしないでください。
5. 湿気のない、空気の流通がある場所で保管ください。
6. 火気のある場所に置いたり、火中に入れないでください。
7. 使用できなくなったバッテリーを破棄する場合は、お住まいの市区町村のルールに従って処分してください。
8. 3ヶ月以上ご使用にならない場合は、一度フル充電してからご使用ください。

● バッテリーの着脱

1 バッテリー部カバーを図のように押し下げてから開けてください。

2 バッテリー端子面の裏側にある三角マークを液晶パネル側にして挿入します。カチッと音のするまで押し込みます。白いストッパーノブがロックします。

3 抜き出す場合は、白いノブを押すとバッテリーはポップアップします。

● バッテリー残量表示

バッテリー残量表示	液晶パネルのバッテリー残量レベル表示
▮▮▮	フル
▮▮	中
▮	低
□ **点滅**	バッテリー残量は空です。速やかに充電してください。

カメラへの取付け

1 **カメラへの取付け**
カメラのホットシューに差し込みます。

2 **カメラへの固定**
固定リングを回してロックします。

3 **カメラの取り外し**
取り外すときは、固定リングを緩めてから引き抜きます。

パワーマネージメント

カメラに取り付けられた場合、90秒以上シャッターボタンが半押しされないとスリープ状態に入ります。スレーブモードの場合は60分です。この設定はC.Fn（カスタム設定）で変更可能です。

オートパワーオフ設定　C.Fn-01　P22参照 スレーブモードのオートパワーオフ設定 **スレーブモードのオートパワーオフ設定　C.Fn-10**　P22参照 初期設定60分、30分に変更可能

フラッシュモード E-TTL

V860はE-TTL、マニュアル（M）、マルチ（ストロボ・スコーピック）の3つの発光モードを持っております。E-TTLモードはカメラの自動調光に完全に対応しております。なお、下記に説明しているいくつかの機能の設定はカメラの液晶メニュー画面から行います（FEC、FEB、FEL、HSS、後幕シンクロ、モデリング発光など）。

（モードのボタンを押すと3つの発光モードが液晶に表示されます。）

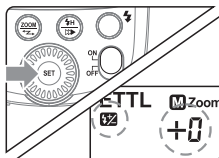
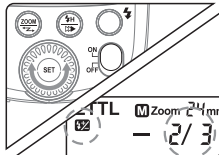
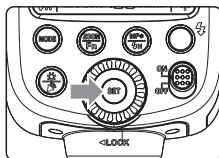
E-TTLモード

モードボタンを押すとフラッシュはE-TTL機能になります。

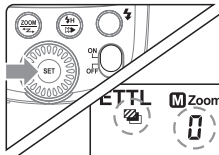
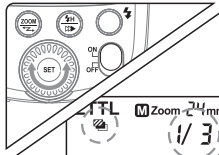
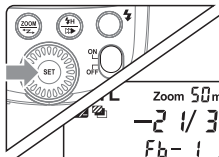
- カメラを半押しで自動合わせ　ピントと絞りの値が液晶に表示されます。
- プリ発光により撮影条件の情報をカメラに伝えます。

このマーク が出たときはE-TTLの最大光量です。 この状態で露出不足の場合はカメラのシャッター ISOで設定してください。

FEC：ストロボ調光補正

調光範囲は–3EV〜+3EVです。セットボタンを押してセレクトダイヤルを回すことで調光補正ができます。設定後セットボタンを押すことで確定されます。なお、カメラ側からの補正を加えても同期しますが、その場合は補正表示が点灯しますがV860液晶パネルには、補正量は表示されません。

1 セットボタンを押すと 表示が出ます。

2 **調光補正量の設定**
- ダイヤルを回すことで調光補正量が設定されます。
- 調光補正を取り消したい場合は0に設定します。

3 セットボタンを押すと調光補正が確定しFEBに設定されます。

FEB：ストロボブラケッティング

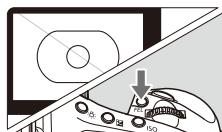
ストロボ光量のブラケッティング機能です。–3EV〜+3EVの範囲を1/3EVステップで設定できます。たとえば1EVの±を選んだ場合、0EV→–1EV→＋1EVと3つの連続した調光が行われます（カスタムファンクションC.Fn-04で調光順序も–1EV→0EV→+1EV変更できます）。この設定は撮影終了後通常に復帰します。セットボタンを2度押すことでブラケット設定モードに入ります。セレクトダイヤルを回して希望する調光量を選びカスタムファンクション　C.Fn-03でFEBのON / OFFが可能です。

1 セットを2回押すと点滅します。

2 点滅の間にダイヤルを回すことで調節します。

3 セットボタンを押すと設定されます。

- FEBは、3回撮影後にストロボブラケッティングが自動に取り消されます。
- FEBを使うには、カメラのシャッターをシングルに設定してください。
- FEBは、調光補正とカメラの露出ロックと一緒に使用することができます。

C.Fn 3回撮影後の自動取消を解除する場合はP22のC.Fn-03を参照してください。

C.Fn FEBの撮影の順番は、自分で設定が可能です。

FEL：フラッシュ光量ロック

E-TTLモードでは、カメラのFELボタンを押すことでストロボのプリ発光が行われて、露出量が測定され、その後発光量がメモリーされます。FELボタンはカメラによって異なりますので、カメラの取扱説明書を参照してください。

1 被写体のピントあわせ

2 FELのピントあわせ

- ピントに被写体をあわせFELボタンを押す。
- フラッシュはプリ発光し、適正な光量を測ります。
- カメラのファインダーの中に0.5秒FELの表示がされます。
- カメラの毎回FELボタンを押す　フラッシュのFELとプリ発光を設定されます。

- このマーク ϟ でもし被写体が遠い場合は露出不足の場合は、このマークがファインダーの中に点滅したときに被写体に接近し、その後FELボタンを押してください。
- もし液晶にE-TTLが表示しない場合はFELは機能しません。被写体が小さい場合はFEL機能がしない場合があります。

ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロボタンを押します。E-TTLおよびマニュアルモード時に高速シャッター速度に同調可能となります。いわゆるFP発光となります。
※カメラ側のストロボ同調速度設定で、高速シンクロが可能になるように設定されていないと、カメラのシャッター速度がある速度以上にセットできない場合がありますので、カメラの取扱説明書を参照してください。

このマークを選択します。
- を押すと がでます。
- カメラのファインダーの中にも がでます。

- シャッタースピードをカメラの最大シンクロスピード以下にセットしている場合 のマークは出ません。
- ハイスピードシンクロはシャッタースピードが速い場合発光範囲が狭
- くなります。

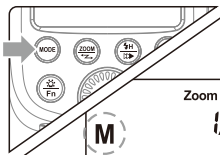
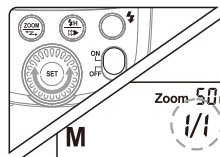
もとの発光に戻すには を2回押すと戻ります。
マルチ発光は使用できません。
高速連続15回発光すると過熱防止の為発光機能が停止します。

後幕シンクロ

V860のシンクロモード設定ボタンによって後幕シンクロに切り替えられます。カメラの外部ストロボ機能設定からも設定が可能です。カメラの取扱説明書を参照してください。

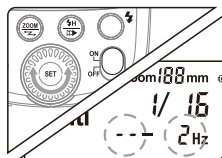
を2回押すと が表示されます。

M：マニュアル発光モード

V860はフル光量から1/128光量まで1/3EVステップで選択できます。マニュアルモードで適正露出を得るには、フラッシュメータなどを用いて発光量を決定してください。

1 モードボタンを押して、液晶ディスプレイにMを表示させることでマニュアルモードに入ります。

2 セレクトダイヤルを回して希望する光量を設定します。

マルチ発光機能

1 モードボタンを押して Multi を表示させます。

2 セレクトダイヤルを回して発光量を選択します。

3 **発光周波数と発光回数の設定方法**
- (SET) ボタンを1回押すと点滅周波数の設定になります。
- もう一度 (SET) を押すと発光回数の設定になります。
- 最後に (SET) を押すと設定されます。

マルチ発光を用いた撮影は、発光している間シャッターを開いておく必要があります。マルチ発光設定とシャッター速度の関係は下記の式で求めてください。

総発光回数÷周波数＝シャッター速度

例）　5（回）÷5（Hz）＝1秒

⚠ 注意:
マルチ発光は、内部回路や発光量への負荷がかかります。オーバーヒートによるダメージを避けるために、10回以上の連続発光は避けてください。10回以上の連続発光を行った場合は、できるだけ15分以上の休止を行ってください。また10回以上の連続発光後、オーバーヒートによる自動停止モードに入った場合も、同様に15分以上の休止を行ってください。休止中は単発発光もしないでください。

- ストロボスコピック効果を得るには、三脚を用いてバルブにセットし、室内灯は消して（あるいは露光に影響ない程度の明るさに）、黒バックで撮影することをおすすめします。また被写体の動く速度に応じた設定を行う必要がありますので、テストの上効果的な設定数値を決定してください。
- 三脚とレリーズの使用をおすすめします。
- マルチ発光モードでは、フル発光と1/2発光は選択できません。
- 以下の数値は最大マルチ発光の回数となります。

最大連続発光周波数表

光量＼Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199
1/4	7	6	5	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2
1/8	14	14	12	10	8	6	5	4	4	4	4	4	4
1/16	30	30	30	20	20	20	10	8	8	8	8	8	8
1/32	60	60	60	50	50	40	30	20	20	20	18	16	12
1/64	90	90	90	80	80	70	60	50	40	40	35	30	20
1/128	100	100	100	100	100	90	80	70	70	60	50	40	40

ストロボ出力と最大発光回数表

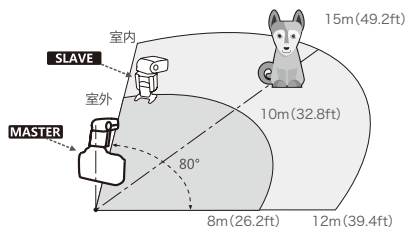
光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
最大発光回数	2	4	8	12	20	40

ワイヤレスフラッシュ

V860cはキャノンEOSデジタルカメラに搭載された、電波通信 / 光通信ワイヤレス自動調光機能に対応しております。ワイヤレス撮影時のマスターストロボおよびスレーブストロボのどちらとしてもご利用いただけます。なお、ご使用になるカメラの機種によっては、ご利用いただける機能に違いがございますので、ご使用になるカメラの取扱説明書を参照してください。

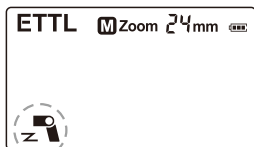
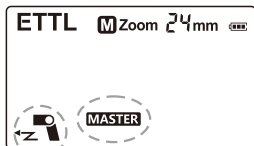
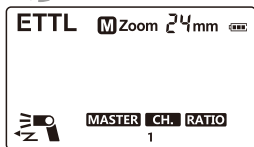
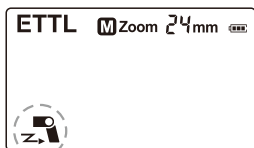
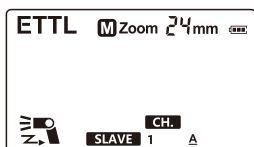
- 本製品はマスターストロボとして、またスレーブストロボとして、ワイヤレスストロボ機能をサポートしております。マスターモードはキャノンの580EX、600EX-RTなどのワイヤレス機能をサポートします。
  対応カメラ例）7D / 60D / 600Dなど（それ以後のカメラも対応）
- E-TTL IIワイヤレス多灯撮影
  スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比を変えながら、E-TTL II / E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

調光補正、高速シンクロ、FEロック、ストロボブランケッティング、マニュアル操作、マルチ発光など、すべてのストロボ設定をマスター側でセットすると、自動的にスレーブ側のストロボに送信されます。

図　マスターストロボから左右80°の範囲で10m（屋外）または15m（室内）以内がワイヤレス有効距離です。カメラの取扱説明書も参照してください。

カメラのプリ発光に応じたスレーブ発光ができます。

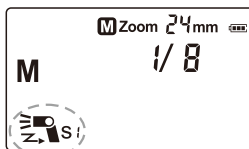
1. ワイヤレス設定

マニュアル発光かワイヤレス発光かの選択をすることができます。マニュアル発光を選択した場合は、ワイヤレス発光をOFFにします。

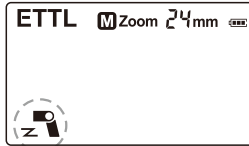
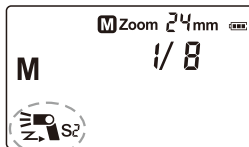
マスターユニット設定

1 ズーム / ワイヤレスボタンを2秒以上押します。ワイヤレスモードアイコンの ドットが点滅します。

2 セレクトダイヤルを回して MASTER 表示を点滅させセットボタンを押します。MASTER と CH. が表示されればマスターモードに設定されました。

スレーブストロボ設定

1 ズーム / ワイヤレスボタンを2秒以上押します。ワイヤレスモードアイコンの ドットが点滅します。

2 セレクトダイヤルを回して SLAVE 表示を点滅させセットボタンを押します。SLAVE と CH. が表示されればスレーブモードに設定されております。

S1リモート設定（光通信ワイヤレスモード1）

マニュアル発光モード時、S1表示がある場合は、他のストロボ発光を受けて同調発光が行われます。S1モードは単発のフラッシュ光に対応しております。他のストロボがマニュアル発光モードの場合や、スタジオ用ストロボの光を併用する場合に使用するモードとなります。

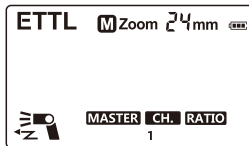
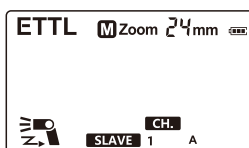
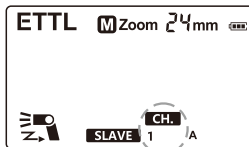
1 ズーム / ワイヤレスボタンを長押しして、ワイヤレスアイコンを点滅させます。

2 セレクトダイヤルを回してS1表示が点滅したらセットボタンを押して確定させます。

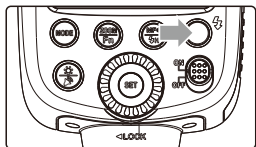
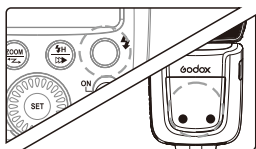
S2リモート設定（光通信ワイヤレスモード2）

マニュアル発光モード時、S2表示がある場合は、プリ発光ストロボに対応した同調発光が行われます。ETTLモードのプリ発光には同調しないで、本発光にのみシンクロするモードです。ただし、本機の発光はマニュアル発光なので、十分テストの上ご使用ください。

1 ズーム / ワイヤレスボタンを長押しして、ワイヤレスアイコンを点滅させます。

2 セレクトダイヤルを回してS2表示が点滅したらセットボタンを押して確定させます。

S1とS2の同調発光はあくまでもマニュアル発光となります。

2. 全自動オートワイヤレス

ETTLモードでのオートフラッシュについて説明します。

1 カメラにマスターストロボをセットします。ストロボをカメラに取り付け、マスターモードに設定します。

2 他のストロボをETTLスレーブモードに設定します。

3 マスター、スレーブとも同じチャンネルにセットしてあることを確認してください。

4 カメラとストロボの位置をチェックします。マスターの光がスレーブに確実に届くように向きなどを確認します。

5 マスターストロボの発光モードをETTL発光にセットします。(マスターを設定すれば他のストロボは自動的にスレーブ機能になります)

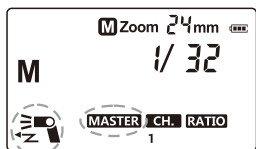
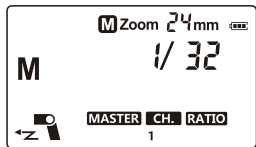
6 各ストロボの充電完了ランプが点灯していることを確認します。

7 マスターユニットのテスト発光ボタンを押し、スレーブストロボが確実に発光していることを確認の後、撮影します。

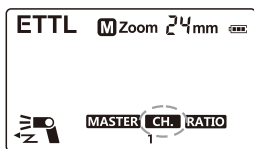
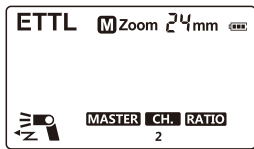
⚠ 注意:

- スレーブストロボの受光センサーがマスターのフラッシュ光を確実に受けられる、距離と角度にご注意ください。
- スレーブユニットの受光センサーが何かに遮られていないか確認してください。
- 撮影する前にテスト発光を行い、きちんとスレーブ発光が行われるか確認してください。

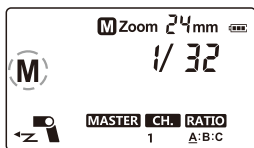
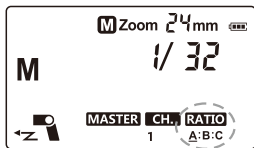
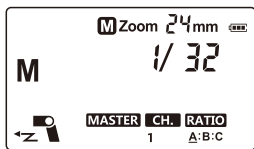
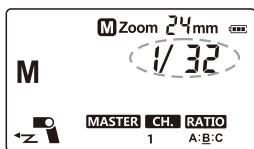
3. マスターユニットの本発光をOFFにするには

マスターユニットの発光を単に光通信だけに用いる場合は下記の操作をしてください。

1 マスターユニットのズーム/ワイヤレスボタンを数回押すとワイヤレスアイコンと MASTER 表示が点滅します。

2 セレクトダイヤルを回して、ワイヤレスアイコンの表示が図のようになったらセットボタンを押すと、通信用のプリ発光だけが行われて、本発光はOFFになります。

本体のフラッシュを発光せずにプリ発光ができます。

4. 通信チャンネルの設定

1 ズーム / ワイヤレスボタンを2回押すと CH. 表示が点滅します。

2 セレクトダイヤルを回して、CHをセットします。
- マスターとスレーブとも同じCH(チャンネル)に合わせてください。

5. スレーブユニットの出力設定

マニュアルモードとマルチモードでは、スレーブユニットごとに異なる設定を行えます。まずマスターユニットの設定を行います。

1 モードボタンを押して、マニュアルあるいはマルチモードにセットします。

2 ズーム / ワイヤレスボタンを数回押して、RATIO A:B:C 表示が点滅します。

3 セレクトダイヤルを回して、**A:B** または **A:B:C** を選び、セットボタンを押して確定させます。

4 **出力の設定**

MASTER CH. **A:B:C** 表示がされているときに、セットボタンを押すとA→B→Cとアンダーラインが動きますので、それぞれ希望の出力に合わせてください。

5 RATIO 表示の下に何も表示されていないときはCHのすべてが同じ出力になります。**A:B** あるいは **A:B:C** の表示がある場合は、それぞれ設定した出力がスレーブに通信されます。

出力グループ

複数灯のスレーブを用いる場合、同じCHとID（AやBなど）を1グループとしてコントロールすることができます。

アプリケーション応用

シンクロコード

本機は2.5mmφのシンクロコードジャックを持っておりますので、専用のシンクロコードを用いてカメラフラッシュとしてシャッターに同調させることができます。

モデリング発光

カメラに被写界深度プレビューボタンを装備している機種では、プレビューボタンを押すことで、1秒間のモデリング点灯を行うことができます。ライティングの確認にご使用ください。なお、ワイヤレス使用時はスレーブモードではなくマニュアルのS1、S2モード時のみ使用可能となります。

注意：
- オーバーヒートを避けるために、10回以上のモデリング発光は避けてください。もし10回のモデリング発光を行った場合、10分間の休止をしてください。
- なお、一部のEOS　KISSおよびタイプBのカメラではモデリング発光が動作しません

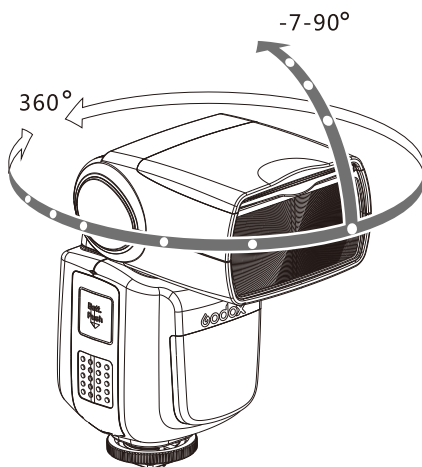
オートフォーカスアシストビーム

AF補助光の投光

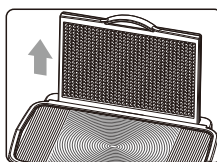
カメラの設定からする / しないを選択できます。カメラによってはストロボからの補助光投光ができない機種もあります。

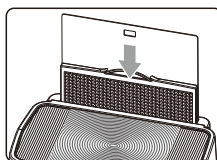
位置	AF補助光有効距離
センター	0.6～10m / 2.0～32.8 feet
周辺	0.6～5m / 2.0～16.4 feet

バウンスフラッシュ

ストロボ発光部は左右360°、上下は−7°～90°の首振りができます。
バウンスさせることで被写体の後ろの影を消すことができます。

注意：
- 天井が非常に高い場所では十分な反射光が得られない場合もございます。
- 壁や天井にバウンスする場合、その表面の色によって正確なホワイトバランスがとれない場合もございますので、テストの上ご使用ください。

キャッチライトパネル

キャッチライトパネルを用いることで、目にキャッチライトを入れることができますので、表情に輝きをもたらす効果が得られます。

1 発光部を上90°にセットします。

2 ワイドパネルを引き上げますと、キャッチライトパネルも一緒に出てきます。

3 ワイドパネルだけを押し下げます。キャッチライトパネルが使用できます。

注意：
- キャッチライトをうまく入れるには、ストロボヘッドをまっすぐ上90°にセットしてください。このときヘッドが左右に振られているとうまく入らない場合があります。
- また適切なキャッチライトが入る距離は被写体から1.5m程度の距離でお使いください。

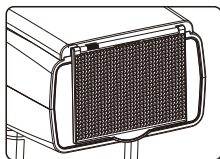
照射角ズームについて

- フラッシュカバー範囲は、自動あるいはマニュアルズームが選べます。対応照射画角は24mm〜105mm相当です。
- 内蔵のワイドパネルを用いますと14mm超広角レンズ相当となります。
- マニュアルズームのセットは、ズーム/ワイヤレスボタンを押して、セレクトダイヤルでレンズ焦点距離を選択します。Mズームの表示が出ていないときはレンズのズーミングに自動対応します。

> ⚠ **注意:**
> - ワイドパネルを用いたときは、ズーム/ワイヤレスボタンは機能いたしません。

ETTL M Zoom 188 mm

ズーム / ワイヤレスボタンを押し、ダイヤルを回すことで発光距離が調整できます。
M Zoom 表示が出ていないときはレンズへのスーミングに自動的に対応します。

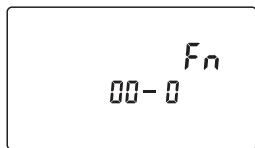
> ⚠ **注意:**
> - ワイドパネルを使用することで被写体の後の影が出にくくなります。

ワイドパネル

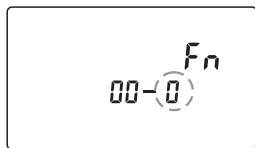
C.Fn カスタム機能設定

カスタム機能リスト

設定できるものは下記の通りです。

※"√"がフラッシュはOK。"0"が不可。

カスタム番号	設置機能	No.	設置機能の説明	※
C.Fn-00	距離の指示表示	0	メートル	0
		1	インチ	
C.Fn-01	オートパワーオフ	0	オン	√
		1	オフ	
C.Fn-02	モデリング発光	0	オン	0
		1	オン	
		2	オン	
		3	オフ	
C.Fn-03	FEB自動取消	0	オン	√
		1	オフ	
C.Fn-04	FEBの順序	0	0 → - → +	√
		1	- → 0 → +	
C.Fn-05	発光測定モード	0	E-TTL II/E-TTL	0
		1	TTL	
		2	外部発光オート測定	
		3	外部発光マニュアル測定	
C.Fn-06	ハイスピード連射モード	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-07	自動テスト発光	0	1/32	0
		1	フル発光	
C.Fn-08	オートフォーカス補助投光	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-09	画像センサー自動ズーム	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-10	スレーブオートパワーオフ時間	0	60分	√
		1	30分	
C.Fn-11	スレーブオートパワーオフ取消	0	8時間	0
		1	1時間	
C.Fn-12	外部電源	0	フラッシュと外部電源	0
		1	外部電源	
C.Fn-13	フラッシュ露出測光モード	0	フラッシュボタンとダイヤル	0
		1	ダイヤル	

1 （液晶パネル照明 / カスタム機能設定ボタン）ボタンを2秒以上、Fn 表示が出るまで押す。

2 ダイヤルを回してカスタム番号を選択する。

3 **設定の変更**

- セットボタンを押すと液晶メニューが点滅します。
- ダイヤルを回して選択し、セットで設定します。
- モードボタンを押しカメラの撮影ができます。

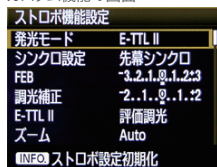
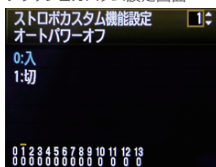
カメラのメニュー画面からストロボ制御

カメラにセットした場合、カメラの液晶メニューからカスタムメニューの操作が可能です。以下の説明を参考にしてください。

- **設置フラッシュの説明**
  発光モードによりいろいろな機能
  1. 発光モード
  2. スレーブモード
  3. FEB
  4. 発光露出補正
  5. フラッシュの発光
  6. フラッシュの設定キャンセルモード

- カスタム機能が設定できるのは以下の4つです。
  C.Fn-01, C.Fn-03, C.Fn-04, C.Fn-10

すべてのカスタム機能のキャンセル

カスタム機能の画面

フラッシュカスタム設定画面

以上の画面はEOS-1D MarkⅡの画面です。

⚠ 注意：

- ストロボ側で発光補正を行った場合、カメラ側の補正はできません（ストロボ側の設定が優先されます）。
- カメラ側から発光量の補正を行う場合は、ストロボの補正は0を選択してください。またその場合、カメラ側から補正を行った後に、ストロボ側で補正を改めてセットすると、後から操作したストロボ側の補正が適用されます。

保護機能

1. 過熱防止機能について

本機はオーバーヒートによる保護機能を持っております。下記の表を目安に、連続発光によるダメージを避けるようにご注意ください。

連続発光回数制限

光量	回数
1/1	30
1/2 +0.7	40
1/2 +0.3	50
1/2	60
1/4(+0.3,+0.7)	100
1/8(+0.3,+0.7)	200
1/16(+0.3,+0.7)	300
1/32(+0.3,+0.7)	500
1/64(+0.3,+0.7)	1000
1/128(+0.3,+0.7)	

ハイスピードシンクロモード

光量	回数
1/1	15
1/2(+0.3,+0.7);	20
1/4(+0.3,+0.7)	30
1/8(+0.3,+0.7);	
1/16(+0.3,+0.7)	40
1/32(+0.3,+0.7);	
1/64(+0.3,+0.7);	50
1/128(+0.3,+0.7);	

2. その他のエラーメッセージ

保護機能が働いた場合のメッセージです。

液晶表示	表示内容
E1	内部回路のエラー。 発光できませんのでサポートセンターまでお問い合わせください。
E2	内部温度上昇のエラーです。10分以上の休止をしてください。
E3	発光管の異常が生じております。 サポートセンターまでお問い合わせください。

製品仕様

型式	V860C
タイプ	キャノンEOSカメラ　E-TTLⅡ互換
ガイドナンバー フル1/1 ズーム105mm	58（m ISO100）
照射範囲	24mm～105mm（ワイドパネル使用時14mm） オートズーム（レンズのズーム操作に対応） マニュアルズーム ヘッドのスイング/ティルト 水平方向0～360° / 上下−7°～90°
閃光時間	1/300～1/20000秒
フラッシュ制御機能	E-TTLⅡオート、マニュアル発光
フラッシュ光量補正 FEC	マニュアル補正　FEB±3EV（1/3刻み） 光量補正とフラッシュブラケット併用可
FELロック	カメラのFELロックボタン または< ＊ >ボタン
同調モード	FP発光モード（1/8000秒まで同調） 先幕シンクロ / 後幕シンクロ
マルチ発光	可（100回以内　199Hz）
ワイヤレス機能	マスター / スレーブ / オフ
スレーブグループ	3（A, B, C）
ワイヤレス有効距離	室内 12～15m / 屋外 8～10m マスターフラッシュ有効範囲 水平±40° / 垂直±30°
ワイヤレスチャンネル	4グループ（1, 2, 3, 4）
スレーブ機能表示	2つの赤色LED同時点滅
モデリングフラッシュ	カメラの被写界深度確認ボタンにて
AF補助光有効距離	センター：0.6～10m　周辺0.6～5m
電源	11.1V/2000mAh Li-ionポリマー電池
リサイクリングタイム	最大1.5秒　充電完了表示　赤色LED点灯
最大発光回数	約650回
スレーブ機能	約90秒間操作をしないと自動休止モードに スレーブ待ち受け時間は最大60分
同調方式	ホットシュー、2.5mmφシンクロコード、 ワイヤレス同調
色温度	約5600K±200K
サイズ（W H D）	64 × 190 × 76mm
重量	420g（電池無し）　540g（含電池）

使用可能なカメラ

注記

V860CはすべてのEOSデジタルカメラに対応しておりません。
2014年4月次点でテスト済みカメラは
5D MarkⅢ 、5D Mark Ⅱ 、6D 、7D 、60D 、50D 、40D 、30Dほかです。お手持ちのカメラが対応しているかどうかは、各自でテストしてくださいますようお願い申し上げます。